

# 大／阪／の／建／築／ま／ち／あ／る／き —— 「やお・かしわら」

りつきょうかん  
**立教館**



外観



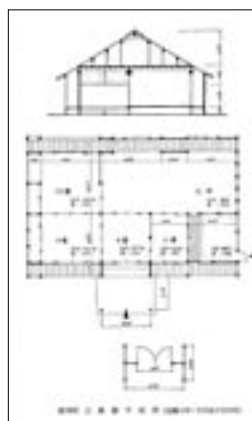
広間



石碑



続間



平面・断面図

所在地： 柏原市旭ヶ丘 3-11-1  
(学校法人玉手山学園内)  
最寄駅： 近鉄大阪線「河内国分」駅より  
徒歩10分  
文化財指定等：大阪府史跡  
見学： 未公開  
TEL： 学校法人玉手山学園 施設部  
072-978-6661  
参考資料： 梶谷政則氏「立教館」調査のための  
覚え書き

江戸時代の河内国分村に柘植葛城を館長とする村の有志らで創設し運営していた学問所があった、これを「立教館」という。

文政13年(1830)頃が始まりで、明治6年(1873)の「学制」による第二十五番小学校として開校するまでの約40余年間運営されていたことになる。

第二十五番小学校はその後、現在の柏原市立国分小学校へと引き継がれている。

この講館は、創設時の建物の老朽化と生徒の増員に伴い、文久3年(1863)建設に着手、翌年の元治元年(1864)9月22日に上棟式を行っている。

講館の大きさは「棟行九間梁行五間半、入母屋造り」であった。ところが、完成は幕末期の政情不安定により約6年後の明治3年(1870)9月のことである。

明治になり、新政府は小学校の設立を激励、この流れに伴い立教館も「私塾」から「公的な教育機関」へと移っていく。明治4年(1871)10月10日「国分村小学校立教館」が開校することとなった。明治6年(1873)6月24日「国分村小学校立教館」から「第二十五番小学校」へと名称が変わり、新たに開校することとなり、この時点で村の学問所であった立教館の実質的教育活動は終焉となった。

国分尋常高等小学校は昭和10年(1935)別の地に新校舎を建設し移転。その後、この講館は廃屋同然の状態となったが、昭和13年(1938)山川重松氏が買取り修復、保存されることとなった。

昭和22年(1947)4月9日、大阪府が史跡として指定。

昭和39年(1964)玉手山学園に移築され現在も同校敷地内で保存されている。(辻野忠彦)